



防災訓練で三千食カレー

さいたま市岩槻区赤十字奉仕団

「人形のみち岩槻」の赤十字奉仕団の結成は、昭和三十年四月。当時の活動は、手ぬぐいで、おむつや浴衣作りをしていたとのこと。平成十年



九都県市合同防災訓練・中央会場
アルファ米炊き出し

に再結成、現在、十八名で活動しています。

平成二十八年度の活動は「災害非常食作り」、岩槻生産の朝顔市で「義援金募集と奉仕団の広報」「赤十字血液センターの梱包ボランティア」「幼児安全法講習会の託児ボランティア」。特に九月一日の「九都県市合同防災訓練・中央会場」(さいたま市大宮区)の炊き出し訓練では、十七名の協力依頼を受け、団員と岩槻区保健愛育会の方々の協力で、当日は早朝から会場まで大移動でした。炊き出しは、アルファ米調理とカレーのパック詰め三千食です。

暑い日の五時間あまり、与野・南区の奉仕団の皆さんと共に交流と力を合わせ夢中の作業でした。機会があったら、また参加したいとの声もありました。

この他、私たちの奉仕団では、特別社資募集と知的障害者施設給食奉仕も行っています。奉仕団活動に積極的に協力、参加する団員が誇りです。



朝顔市で義援金募集

フェスティバルで義援金募集

春日部市赤十字奉仕団

市内商業施設にて開催されたボランティアフェアフェスティバルにおいて活動を行いました。

このイベントはボランティア活動を身近に感じてもらい、参加・協力へつなげていく場として、春日部市ボランティア活動推進連絡会と春日部市社会福祉協議



手作りストラップ作製体験

会との共催により毎年実施されているものです。本団は手作りストラップなどの作製体験を通して、赤十字の広報・啓発活動や団員募集を行いました。休日ということもあり、友達連れの小学生や親子で体験される方も多く、幅広い世代の方に本団の活動を身近に感じていただけたと思います。また、熊本地震災害についてのパネル展示を行い、復興には継続的な支援が必要であることを訴えるとともに、義援金への協力を呼びかけました。途中、パネルの前で立ち止まり、思いをめぐらせている方もみられました。イベントの締め括りとして、来客と団員が輪をつくり一緒に踊りました。この輪のように奉仕の輪もひろがり、そして繋がっていくことを願い、今後も活動に邁進していこうと決意を新たにしました。



義援金の募集活動



絵本の読み聞かせボランティア

伊奈町赤十字奉仕団

伊奈町赤十字奉仕団は昭和五十三年十一月に発足し、現在は団員六四名で活動をしています。主な活動として、町の行事やイベントに参加しています。防災訓練では、災害時の食事としてハイゼックスやポリ袋を使った炊き出しを行い、災害時の訓練を実施したり、夏祭りではケガをした方の救護活動を行うなど、地域に密着した活動をしています。

また、乳幼児からお年寄りまで幅広くボランティア活動をを行うために、町内の高齢者施設を訪問し、入所者の方が楽しい時間を過ごせるように話し相手になる傾聴ボランティア活動や、3か月乳児健康診査の際に、乳児に絵本の読み聞かせを行うブックスタート活動を行っています。

ボランティア活動以外では、講師を招いて団員研修を行い、心肺蘇生法やAED講習などの実地的な訓練から、生活習慣病や災害時の高齢者対応などの講習まで幅広い内容の研修を年2回実施し



3か月乳児健康診査で
絵本読み聞かせボランティア

ています。これからも団員が協力しあい、地域の人々との交流を通して、社会に貢献できるように活動をしていきたいと思えます。

訓練で自助・共助の 大切さを実感

ふじみ野市赤十字奉仕団



心肺蘇生法やAEDを学ぶ団員研修



ふじみ野高校の生徒さんと一緒に防災訓練に参加

ふじみ野市赤十字奉仕団は、団員百七名の奉仕団です。日頃から応急手当の普及や、災害時に備えた炊き出し訓練などに励んでいます。平成二十八年度は、県支部の協力のもと災害時高齢者生活支援講習会を五回企画し、延べ約百七十名の方に受講をいただきました。講習を受けた民生委員さんは、お年寄りの介助にホットタオルなどを実践し、地域の方に非常に喜ばれているとのことでした。

夏には、ふじみ野市で開催された九都県市合同防災訓練に連日参加をしました。訓練初日は、帰宅困難者を想定した宿泊訓練に参加し、地元ふじみ野高校の生徒と共にハイゼックスを使った炊き出しや、限られた資材での寝床の設営などを体験しました。二日目は自衛隊と連携して千二百食のアルファ米を炊き出し、カレーを振る舞いました。災害時の限られた環境を想定し、寝泊まりや食糧供給の大変さなどを体験できたことで、ますます自助・共助の大切さを実感いたしました。



九都県市合同防災訓練・ふじみ野市会場
アルファ米炊き出し





中高生と非常食作り

嵐山町赤十字奉仕団

「袋にいれるだけでカレーが作れるなんて!」と、たくさん驚きの声と災害時にできる炊き出しのひとつの方法を伝えることのできたこの夏。社協主催の「夏休みボランティア体験プログラム」に今年度から参加しました。

当日のメニューはカレーライス。火の通りを考えて、シーチキンを使用しました。参加者は中高生がほとんどなので、説明の仕方や作る上でのポイントをどう伝えるか、事前に奉仕団員で集まり、実際に作りながら検討会を行いました。さて、当日。包丁の使い方では、こちらがハラハラしてしまったり、ハイゼックスの水加減や輪ゴムの結び方では、空気が入らないように共に慎重になつて。

また、災害についてクイズ形式で学び、紙食器を作り、「もしもの時に力になろう」を合言葉に、知識を深めました。

できあがったカレーは最高の出来栄え。手作り杏仁豆腐やスイカと一緒にいただきました。参加者からは、この体験を今後活かしたいと心強



夏休みボランティア体験プログラムで非常食作り体験

い声をいただきました。

嵐山町赤十字奉仕団では、愛情弁当サービスの弁当作りや町内の防災訓練の協力等、様々な活動を行っています。今後も団員一丸となって、奉仕の輪を広げていきたいと思ひます。



楽しみながら防災クイズ

炊き出し訓練で広める赤十字奉仕団活動

寄居町赤十字奉仕団

寄居町赤十字奉仕団は、日頃から町内各地区からの依頼を受けて炊き出し訓練を行っています。平成二十八年十一月十九日(土)には、寄居町及び寄居町コミュニティ協議会主催の自主防災組織防



自主防災組織の皆さんに炊き出し指導



おいしい非常食作りのポイントは水の分量にあり

災訓練に協力させていただき、ハイゼックスを使ったカレーライスの炊き出しの指導を行いました。参加者は水の分量や袋の閉め方に注意しながら、一つ一つ丁寧に取り組んでいました。できあがったカレーライスを会場の皆さんに

配布していると、「ごつやって作るの?」「これは災害時に役立つね」などの声をいただいた。住民の方への啓発につながったのではないかと思います。「おいしい」という声もたくさんいただけて、大成功の訓練となりました。

この他にも、今年度は町内五地区、また他市町の行事でも炊き出しを行いました。今後も地域とのつながりを大切にしながら奉仕団活動を続けていきたいと思ひます。



にぎやかに笑顔あふれる 縫製作業

鶴ヶ島市赤十字奉仕団

鶴ヶ島市赤十字奉仕団は昭和六十年に発足し、現在、五十代から八十代までの四十四名の団員が活動しています。活動内容は月一回の特別養護老人ホームでの車いす清掃、地域の炊き出し交流会、視察研修、事業講習会、そして今回ご紹介する縫製作業です。

縫製作業では、雑巾や体を洗うタオル（お年寄りの握力でも握りやすいように工夫しています）を縫製し、社会福祉施設に寄贈しています。また、かぎ針で編むアクリルたわし、ペットボトルホルダー、その他手芸品の縫製も行っています。これらはバザー品として市内で行われる五カ所の市民センターまつりで販売し、売上金は災害義援金や募金として全



チャリティバザーで災害義援金募集



楽しみながら作るバザー品

額寄付しています。毎回多くの団員が参加し、にぎやかに笑顔とおしゃべり盛りだくさんで作業が進みます。

こうした作業が団員同士の交流を深め、これからも地域社会に貢献できたらと思います。団員の趣味・特技を活かした笑顔あふれる活動を続けていきます。

地域に根づいた活動を目指して

神川町赤十字奉仕団



土砂災害訓練でカレーの炊き出し

神川町は県の北部に位置し、春には特産の梨の花、冬には冬桜が咲き誇る災害の少ない穏やかな町です。

神川町赤十字奉仕団では、お年寄りが集う「ふれあいサロン」へのサポート、

福祉施設でのボランティア活動など地域に寄り添う活動をしています。町の「コスモス祭」では、すいとんの炊き出し、大きな鍋で作った二百食があっという間に完売、また、布絵本の制作グループによる作品「リュック」や「スカーフ」等も販売され大好評でした。これらの売上金はすべて被災地への義援金として送金させて頂きました。

山間部の神泉地区で町主催の土砂災害訓練で、避難訓練や救急法講習会が行われました。

私たち奉仕団もカレーライスの炊き出し訓練で参加、地域住民・消防団員・行政職員に提供しました。地域にお年寄りが多く「おばあさん大丈夫？気をつけてね」「ありがとね」など声を掛け合いながらの訓練は狭い地域での日頃の絆を感じさせる意義ある訓練となりました。

これからも全団員が協力し合い、地域社会に貢献できるよう活動していきたいと思えます。



赤ちゃんでも見て触って楽しめる布絵本の作製



研修を通して学ぶ血液事業

宮代町赤十字奉仕団

宮代町赤十字奉仕団は、五十九名の団員で各種活動を行っています。

主な事業内容としては、街頭募金や献血推進事業の呼びかけや各自治会で行われる救命講習のアシスタント、また、町の防災訓練の際に炊き出し等を実施しています。

今回、平成二十八年十二月七日に宮代町赤十字奉仕団の主催で、埼玉県東松山市にある関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の視察研修を実施しました。

当日は、四十名の方にご参加いただきました。研修の目的は、地域住民の方に少しでも日赤について身近に考えていただく機会を作りたいと考え、役員の方々と知恵を絞ってバスツ



視察研修 関東甲信越ブロック血液センター

アーを企画しました。バスの中では、日赤のDVDを用いての研修を実施し、また、製造所では、献血していただいた血液が輸血用血液製剤になるまでの行程を見学し、日赤の幅広い業務についても職員の方から説明をいただきました。

参加者からも日赤の業務については、災害時に活動をしている団体というイメージを持っていての方が非常に多く、この研修をきっかけに、日赤業務の中に、献血の事業や救急法普及活動等、身近なところで活動をしている団体であると認識してもらおうことができました。

今後も、地域と密に関係を持ちながら、日赤の業務を広めていきたいと思えます。



輸血用血液製剤が出来るまでの工程を見学

献血者にけんちん汁サービス

秩父市赤十字奉仕団

平成二十九年一月二十二日(日)、ウニクス秩父の駐車場で献血をしていただいた方に、けんちん汁を食べていただく



アツアツけんちん汁サービス

ことを目的とした献血のお手伝いをしました。

冬は特に寒い秩父地方、昨年は雪で実施できなかったため、天候が心配でしたが、今年は、快晴で風もなく良い日より団

員の皆さんに協力していただき、けんちん汁のおもてなしを実施することが出来ました。

いつも、日赤埼玉支部からの依頼を受け、年間事業として献血のお手伝いをしています。今回は役員二十一名が参加しました。

また、高校生ボランティアがハートラちゃんの着ぐるみに入り、集まってきた子供さんや親子と写真を撮ったりして、楽しんでいました。献血のPRとして、とても良かったと思います。けんちん汁がとても好評で、九十二人の方から献血のご協力をいただくことができました。ありがとうございました。



災害用移動炊飯器(大釜)が大活躍





患者さんに寄り添う ボランティア

SRCHボランティア赤十字奉仕団

SRCHボランティア赤十字奉仕団は、昭和六十年にさいたま(旧大宮)赤十字病院で活動する赤十字奉仕団として発足し、三十三年目を迎えました。地域婦人有志者の発案で、患者さんの案内、衛生材料作りの活動から始めた特殊奉仕団で、その後、図書貸出しサービス、車椅子サービスと活動が増えました。



車椅子サービス
入院病棟とリハビリ
テーション室間の移動援助

現在、百十名ほどの団員が活動しています。他にも院内の防災訓練などの傷病者役で参加するなど幅広い活動をしています。

平成二十九年一月一日に病院は、さいたま新都心に移転しまして、気持ちも新たに活動をスタートしました。今迄と変わった事で戸惑いもありますが、大変やりがいもあります。患者さんは毎日変わりますし、病気も様々でいつも緊張の連続です。患者さんには、笑顔を忘れず、明るくやさしく接する事を大切に活動しています。

これまでと同様、車椅子サービスは、病室とリハビリ室の送迎、衛生材料作り、図書貸出し

サービスも行っています。病院に来るとボランティアさんがいるので安心して頂ける活動を続けていきます。



衛生材料作り
(医療スタッフが使用しやすいようにガーゼの準備など)

スポーツ大会で 救護所ボランティア

埼玉県ナース赤十字奉仕団

埼玉県ナース赤十字奉仕団は、病院を退職した看護師により発足した奉仕団で、平成二十八年五月に三十周年を迎えました。発足当時は九名の団員で、その後二十名前後で推移し現在は十八名の団員です。

主な活動内容は、地方公共団体や公共的団体等が主催するスポーツ大会・イベント等の臨時



イベント会場で赤十字をPR

救護です。急病人や負傷者が出た際、医師または救急隊に引き継ぐまでの応急手当を実施しています。また、一日赤十字に参加し、来場者の血圧測定と健康相談も行っています。

このような活動を行うにあたり、団員の知識・技術の向上を目指して年に三回団員研修会を開催し、熱中症対策の講義を受講したり、心肺蘇生法や三角巾を使った固定法を行っています。

また、年に一度、県外研修を実施しています。平成二十八年度は、一月に日赤千葉県支部を訪問し、千葉県赤十字看護奉仕団と交流会をして意見交換を行いました。その後、義肢製作所の見学をさせていただきました。新たな知識を得ることもできました。



千葉県赤十字看護奉仕団との交流会



ハイゼックス（炊飯袋）とは？

災害時の炊き出しアイテムの一つであり、赤十字奉仕団では、炊き出し訓練などにおいて、広く利用されています。インターネットには、多くの販売業者がありますので、ご興味がある方は、検索してみてください。

ハイゼックスの特徴

- ・皿や箸などの食器が無くてでも食べることができ、調理に使用した鍋や釜を洗う必要が無い。
- ・調理する際や、食べる際に、直接お米に触れることが少なく、おにぎりに比べて衛生的。
- ・季節にもよるが、梅干しなどを入れるなどの工夫をすれば、多少の保存が可能。

作り方

- ・ハイゼックスに洗ったお米又は無洗米と水（米と同量の水）を入れ、袋の中の空気を抜きながら、輪ゴムなどで口を縛る。

- ・沸騰したお湯で、おおよそ30分間ゆでる。家庭用の小さなコンロでも、災害炊き出し用の大釜でも調理可能。

- ・おいしく食べられます。



赤十字の活動資金にご協力をお願いします

日本赤十字社の活動は、皆さまから寄せられる会費や寄付金によって支えられています。

●表彰制度があります

活動資金にご協力いただいた場合、表彰制度があります。

特別社員章	支部長感謝状	銀色有功章	金色有功章	日本赤十字社社長感謝状
一時または累計で2万円以上	一時または累計で10万円以上	一時または累計で20万円以上	一時または累計で50万円以上	金色有功章受章後、一時または累計で50万円以上



銀色有功章
(法人・団体・橋式)



銀色有功章
(個人・法人・団体・橋式)



金色有功章
(個人・勲章式) [左:男性・右:女性]

●税制上の優遇措置が受けられます

日本赤十字社にご寄付いただいた活動資金は、個人の所得税や企業等の法人税の優遇措置が受けられます。

また、ご遺族が相続された財産を日本赤十字社埼玉県支部に寄付することによって、相続税の優遇措置が受けられます。

詳しい内容については、日赤埼玉県支部までお問合せください。

TEL 048-789-7117

ご協力方法

- ・日赤埼玉県支部へ持参
- ・日赤埼玉県支部職員の来訪
- ・お近くの市区町村赤十字窓口への持参
- ・銀行振り込み
- ・郵便局からの振り込み
- ・口座振替
- ・遺贈 など

《地域赤十字奉仕団》

市区町村の地域ごとに結成されています。

《青年赤十字奉仕団》

学生や社会人によって組織されています。

《特殊赤十字奉仕団》

専門的な知識・技術をもった人や特定の活動のために集まった人によって組織されています。

埼玉県内の団員数

(平成28年3月31日時点)

地域	7,186
青年	223
特殊	1,073
合計	8,482

赤十字奉仕団員の信条

- すべての人びとのしあわせをねがい、陰の力となって人びとに奉仕する。
- 常にくふうして人びとのために、よりよい奉仕ができるよう努める。
- 身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす。

お問い合わせ

日本赤十字社埼玉県支部 事業部 奉仕・青少年課

電話：048-789-7117

FAX：048-834-1520

ホームページ <https://www.saitama.jrc.or.jp/>



平成28年11月5日（土）
赤十字救急法競技会（秩父市内）



Facebookでも埼玉県支部の情報を発信しています

日赤埼玉県支部は、公式Facebookアカウントから随時、赤十字に関する情報をお届けしています！



日赤埼玉県支部
奉仕団だより

第3号

平成29年4月1日発行
発行者
日本赤十字社埼玉県支部
〒330-0064
埼玉県さいたま市浦和区
岸町3-17-1
電話 048-789-7117



ハートちゃん

日本赤十字社公式
マスコットキャラクター

日本赤十字社の使命

わたしたちは、

苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、

人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたち赤十字奉仕団は、

大切な人の命を守るため、

救急法の知識と技術を研んでいます。